



湧き出でよ人材

創立100周年記念碑より

今月のテーマ
「挑む」

本部町立伊豆味小中学校

No.6
R8.6.22
発行

学校だより

文責 校長 伊波 勉



本部町慰霊祭

6月19日(金)に開催さ

れた本部町慰霊祭において、中学3年生の嶺井徠亜さんが生徒代表としてあいさつを行い、平和への願いと戦争の記憶を次世代へつないでいく決意を述べました。(以下全文)

伊豆味のあいじさいに雨粒が落ち、その雨粒が森を潤す日々が続いていましたが、沖縄の暑い、熱い夏がすぐそこやってきています。

本日挨拶をする機会をいただいたことをきっかけに、私が考えていきたい、「平和」や、「平和」のためにできることは何だろうと、思いを馳せてみました。私たちの生活にも、物価高という影響を及ぼしている、ウクライナとロシアの戦争は、今も続いている争いです。お互いの考えの違いや思惑、世界との関係、様々な考えが絡み合っているとありますが、犠牲になっていく国民をテレビで目にする、いたたまれない気持ちになります。その、テレビで見る、私の日常とはかけ離れた光景が、八一年前に、沖縄でも繰り広げられました。一九四五年に沖縄に上陸して始まった、沖縄の地上戦。犠牲者は十二万二千人。三月月という、長い、辛い日々。八一年前の今日を、私たちの先祖さまは、どのように乗り越えていたのでしょうか。私と同じ十五歳の中学生は、夢や希望ではなく、命を守らなければ、という恐怖の中で生きていたのでしょうか。

慰霊の日が近づくと、学校やテレビで、沖縄戦のことを学ぶ機会が増えます。終戦を迎えたそのあとも、様々な困難があることも学びました。今日の沖縄になるまでに、沖縄の、ここ、本部の、たくさんの人の頑張りが、私たちの今日を紡いでくれています。その大切な今日に感謝をしながら、一生懸命、目標に向かって進んでいくことが、私ができる「平和」の一步だと考えました。そして、地域の慰霊祭に参加し、皆さんと一緒に手を合わせる、家族や夢、目標を持ちながらも叶わずに命を落とした、たくさんの犠牲者の思いを受け継ぐ、貴重な時間になります。戦争の悲惨さを忘れず、この平和な日常を次の世代へ繋いでいけるように、これからも、地域の歴史を学び伝えていきます。最後にありますが、沖縄戦で命をおとした多くの人の、ご冥福をお祈りし、代表挨拶とさせていただきます。

伊豆味中学校 三年 嶺井 徠亜



慰霊祭には、中3年生全員が参加しました。

不審者侵入対応訓練 「学校は絶対的に安全な場所でなければならない」

6月12日(金)、不審者が校内に侵入したことを想定した対応訓練を実施しました。不審者役は、本部町役場の町魅力化スタッフである山下さんに務めていただきました。伊豆味校では、校内で見慣れない人物を見かけた場合、その方の挙動にかかわらず、職員が積極的に声かけを行うことにしています。訓練では、不審者の侵入に気付いた職員から通報があり、その後、全校放送で避難指示が出されました。写真は、児童生徒の安全を確保した後、職員が不審者への対応に当たっている様子です。

訓練後の講評では、本部警察署の渡嘉敷さんから、「児童生徒の皆さんが先生方の指示に従い、落ち着いて行動していました」とお褒めの言葉をいただきました。今後も、児童生徒の安全確保を最優先に考え、危機管理体制の充実に努めてまいります。

